

村野紀雄

1月5日に、冬の珍しい暴風雨があって、雪が雨で沈められ、その上に木の枝や、それまで樹上に残っていた木の実が数多く落下した。翌6日の朝、固くしまった雪の上をごむ長で歩く。

折られた木には悪いが、その散策の楽しいこと。

木冠の下に、色々な形をした種子や小枝が足の踏み場もないほど散らばっていて、白い雪の紙面が華やかに彩られている。

オオバボダイジュ、シナノキの飾り葉をつけた

果実が大、小のちがいを見せて仲良く並んでいた。アズキナシの赤い実、センの黒い実、イタヤカエデの翼果、トドマツのまつかさの鱗片と種子など、まだこんなにも残っていたのかと思うほどだ。なかでも多いのはシラカンバの小さな飛行機のような形をした種子。雪面を無数に飛んでいて、雪面につけられたエゾユキウサギやキタキツネの足跡の中までとびこんでいる。

そして、目に鮮やかなのはアカミノヤドリギ。まるで雪面から生えたようにつき立ち、すきとおった赤実と黄緑の葉が雪ににじんでいる。

9日の降雪まで、そんな状態が続いた。

## 植物名由来「北海道地名解」

### —第2回道植友講演会から—

松木 裸志

植物名由来のアイヌ名から付けられた北海道地名を集めてみた。植物名が学問的に厳密か或は総合的名称かは、同定を伴っていないので不明である。記述は、植物名、「」アイヌ名、意味、地名(読み、郡名)の順とした。

アシ、ヨシ、キタヨシ 「アッ・マト」葦の茂る湿地・厚真(あつま勇払郡)「ウライポロ」葦の多い所・浦幌(うらほろ十勝郡)「キオマップ」・清真布(きおまっぶ空知郡)「シ・キウ」葦のある所・敷生→竹浦(しきう→たけうら白老郡)「シュブキ・ベツ」矢材の葦の多い所・朱太川(しゅぶとがわ寿都郡)

カヤ・ヌマガヤ・ススキ 「サロ・ベツ」又は「サラ・オ・ベツ」茅の多い川口・サロベツ(宗谷郡) 猿別(さるべつ十勝郡、天塩郡、沙流郡) 更別(さらべつ十勝郡)「サラブツ」茅の生えた川・猿拂(さるふつ宗谷郡)「サロロ」茅の中の川・沙留(さるる紋別郡)「サロマ」・佐呂間(さろま常呂郡)「サロマ・トー」茅のある沼・佐呂間湖(さろま湖常呂郡)「サルプト」茅のある所・佐瑠太→門別(さるぶと→もんべつ沙流郡)「サルン・ベツ」斜里(しゃり斜里郡)「サラキブ」鬼茅の密生する所・沢木(さわき紋別郡)

アサ 「ハイ・キト」麻や茅のある沼・早来(は

やきた勇払郡)

イチイ、オンコ 「ラルマキ」オンコの生えた土地・良留巻(らるまき古宇郡)

イチゴ 「エマウリ・オマレプ」イチゴのある沢・稀布、稀府(まれっぶ有珠郡)

エゾイラクサ 「モセ・ウシュ・ナイ」イラクサを採った所・妹背牛(もせうし雨龍、釧路、目梨、虻田各郡)「ハイ」繊維用のイラクサのある所・波意→豊郷(はえ→とよごう沙流郡)「ノカ・ナン」イラクサやシナノキやオヒョウ等の繊維の、仕掛弓の糸を置く所・野花南(のかなん空知郡)

エゾネギ 「ニンビル・トマリ」アサツキの多い碓泊所・泊(とまり積丹郡)

エゾヤマザクラ 「カリンバ・ウシ」サクラの多い所・狩場、刈場(かりば瀬棚郡)

エゾラン 「ケニ・オマイ」黄花慈姑の根のある所・慶能舞→清島(けのまい→きよはた沙流郡)

エゾエンゴサク 「トマ・オマ・ナイ」エゾエンゴサクのある沢・苫前(とままえ苫前郡)「ブイ・オマブ」笛舞(ぶいまい幌泉郡)

エゾヤマハギ 「シキナイ」ハギのある所・関内(しきない有珠郡)

オオイタドリ 「クッタリウシ」「クッタラウシ」オオイタドリの多い所・屈足牛→新得(くったりうし→しんとく上川郡) 倶多楽(くったら虻田郡)

オオウバユリ 「アッ・タ・ベツ」オオウバユリを掘る所・虻田(あぶた虻田郡)

カツラ 「ランコ・タ・ウシ」「ラン・コウシ」